

鈴木敬二さん(牛潟)が第32代チャンピオンに 上原げんと杯のど自慢大会



第32代チャンピオンとなり熱唱する鈴木さん

旧木造町出身で「東京の花売り娘」「港町十三番地」などのヒット曲を生んだ作曲家・上原げんと（1914～65）を顕彰して毎年開かれている第33回上原げんと杯争奪のど自慢大会の準決勝と決勝が8月27日、木造中央公民館で開催され、市内外から2000人を超える歌謡ファンが詰め掛けました。準決勝に出場した30組の中から11組が決勝に進出し、「俺の恋・決めた恋」を歌った鈴木敬二さんが第32代チャンピオンに輝きました。

大会では、特別審査員として作曲家の影山時則さんが決勝の審査を行いました。また、ゲスト歌手の藤原浩さんも歌を披露し、聴衆を魅了しました。

実行委員会では、事業費の一部を東日本大震災の義援金として日本赤十字社青森県支部に寄付しました。

長寿夫婦39組を顕彰 つがる市福祉顕彰式

長年連れ添った夫婦を祝う「平成23年度つがる市福祉顕彰式」が9月1日、松の館で行われました。

今年は88歳到達者夫婦11組、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）7組、金婚夫婦（結婚50周年）21組が該当。福島市長は「皆さんの培ってこられた豊富な知識や経験がこれからますます必要となります。今後とも地域のためにご指導ご支援お願いします」とあいさつし、顕彰状を手渡しました。

また、式典後のアトラクションでは菰槌保育園の園児による遊戯と市シルバー人材センター友の会「ザ・サフリーズ」によるスコップ三味線の演奏が行われ、出席した夫婦らは笑顔で拍手を送っていました。



上) 福島市長から顕彰状を受け取る夫婦



下) 長寿を願う菰槌保育園の園児

ショートムービー「けの汁」など上映 縄文メロンアワードファイナル



「けの汁」の撮影を振り返る（右から）千村監督、浜丘さん、石田さん

「縄文メロンアワードファイナル」が8月21日、松の館で開催されました。つがる市の映画祭として親しまれてきたこの催しも今年が最後となり、会場ではショートムービー「けの汁」などが上映され、市民ら約500人が映画を楽しみました。

特別ゲストとして「けの汁」の千村利光監督、主演の石田法嗣さん、浜丘麻矢さんが登場すると会場は大きな拍手に包まれ、石田さんは「伝統や郷土料理、皆さんの優しさが伝わってくる作品」、浜丘さんは「撮影中の思い出がいっぱい。いろんなものが詰まった作品」と撮影中のエピソードを交えながら映画への思いを話しました。

3人には市から「泣いた！笑った！感動した！賞」と副賞のつがる市産メロンを贈呈。副賞のメロンの一部は、千村監督の意向により前もって、被災した石巻市に送られ、当日は現地の子どもたちからの感謝の手紙が会場のロビーに展示されていました。

平山ゆりあさん(牛潟小)が走り高飛びで全国大会3位



全国大会3位入賞を果たした平山ゆりあさん(右)

8月27日、横浜市日産スタジアムで開催された第27回全国小学生陸上競技交流大会で、平山ゆりあさん(牛潟小6年)が、走り高飛びで1m35cmの記録を収め第3位に入賞し、9月2日、福島市長へ報告に訪れました。

平山さんは自己ベスト記録が1m40cmで、部活動がない日は家でも練習を重ねる努力家。この日は、ユニフォーム姿でトロフィーとメダルを披露し「決勝の最後の方は緊張して足が震えた。自己ベストに届かなくて悔しかった」と話しました。福島市長は「全国の舞台で力を出し切るのは難しいこと。3位はすばらしい」と活躍を称えていました。

絆、つながりを大切に 自殺予防講演会

9月11日、松の館で自殺予防講演会が開催され、市民ら約230人が自殺予防のための活動や対策について理解を深めました。

始めに今年度の市の自殺予防標語で入選した加藤美保子さん、江良亜美さん、松橋聖華さんに表彰状が贈られ、その後、自殺多発地である福井県の東尋坊でパトロール活動などを行うNPO法人「心に響く文集・編集局」代表理事の茂幸雄さんが「死んだらアカン! ~命の灯台・東尋坊からのメッセージ」と題して講演。元警察官の茂さんが東尋坊で出会った人たちとのエピソードを紹介し、「自殺を考えている人には『一時避難場所』と『頼れる人』が必要」と強調しました。

また、精神保健福祉ボランティア「エールの会」による中年サラリーマンのうつ病を題材にした紙芝居「お父さん、はい朝刊」が上演され、参加者は熱心に見入っていました。



左)「相手の話をじっくり聞くことが大切」と呼び掛ける茂さん



右) 標語入選者の(左から)加藤さん、松橋さん、江良さん

事故防止へ決意新た 秋の交通安全運動



交通安全の誓いの言葉を発表する館岡子供交通指導隊

秋の全国交通安全運動が9月21日から30日までの10日間展開されることに伴い、9月20日、つがる市交通安全のつどいがイオンモールつがる柏で行われました。

つどいには、市民や関係者ら約150人が参加し、つがる地区交通安全協会の桜庭修会長が「日没が早まるこれからの時期は夕暮れ時の交通事故や高齢者の交通事故が多発する傾向があり、関係機関が連携し交通安全対策に取り組みます」と福島市長にメッセージを伝達しました。

また、アトラクションとして、よさこい知求群会が演舞を披露し、柴田子供交通指導隊と館岡子供交通指導隊の隊員が「運転する時は絶対お酒を飲まないで。携帯電話は車を止めてから」と大きな声で呼び掛けました。

亀ヶ岡遺跡まつり&田小屋野貝塚ウォーク

縄文遺跡群の世界遺産登録への気運を高めようとNPO法人つがる縄文の会（野呂隆昌理事長）による「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり&田小屋野貝塚ウォーク」が8月20日、しゃこちゃん広場を主会場に開催されました。

今年は初のイベントとして田小屋野貝塚ウォークが行われ、市内外から参加した約120人が貝塚と遺跡を巡る約3キロのコースをアイドルグループ・りんご娘と一緒に歩き、佐野忠史学芸員の解説を聞き知識を深めました。

また、縄文人がアクセサリーとして使っていたというベンケイガイ製の貝輪（ブレスレット）の制作体験なども行われ、縄文時代の暮らしに思いをはせていました。



石の矢尻に触れて太古の生活を想像する参加者



優勝した坂本君（左）と天坂さん（右）

英語で堂々とスピーチ

第33回西つがる中学校英語弁論大会が9月1日、松の館で行われ、暗唱の部に27人、創作の部に10人が出場し、審査の結果、暗唱の部では、天坂友美さん（森田中3年）が、創作の部では坂本翔牙君（柏中2年）がそれぞれ1位に輝き、9月27日の県大会に出場することになりました。

天坂さんは「英語の発音の調子のいい時と悪い時があるので、それを直し、県大会では大きな声でスピーチしたい」と話し、坂本君は「前ALTのマイケル先生が教えてくれた『Friendly(まごころ)』の大切さがテーマ。多くの人に自分の気持ちを伝えたい」と抱負を語りました。

縄文文化の魅力を発信

10月18日から11月20日まで函館市立博物館で開催される「現代に息づく縄文文化 亀ヶ岡焼」展に館岡「しきろ庵」の窯元・一戸広臣さんが作品を出展することとなり、9月14日、福島市長に報告に訪れました。

同博物館では「函館市縄文文化交流センター」のオープンを記念し、函館で出土した国宝中空土偶と深い関連性を持つ「亀ヶ岡式土器」をモチーフにした作品を制作する一戸さんに出品を依頼。壺や皿、遮光器土偶など計25点を展示することになりました。一戸さんは「作品を通して多くの人に亀ヶ岡遺跡や縄文文化を知ってもらえれば」と話していました。



展示会について説明をする一戸さん（右）



念願の初優勝を果たしたつがる市野球協会のメンバー

つがる市野球協会が初V

第18回青森県熟年野球選手権大会成熟の部（40歳以上）でつがる市野球協会（成田信男監督）が初優勝を飾り、9月12日、福島市長に喜びを報告しました。

8月27日から始まったトーナメント戦で同協会は上北レイクスターズ、十和田済誠会病院、ユニオン青森、酔神を破って勝ち進み、決勝戦（9月4日、岩木山球場）で西体協野球部を5対0で快勝し頂点に立ちました。成田監督は「休日しか練習できなかったが、試合を重ねるごとにチームがまとまり力をつけた」と報告すると、福島市長は「来年も優勝目指して頑張ってください」とエールを送りました。



認知症サポーター養成講座を開催

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、大館集会所で8月10日、「認知症サポーター養成講座」が開催され、大館地区老人クラブの35人が参加しました。

この日は、つがる市キャラバンメイト（市地域包括支援センターの保健師）が認知症サポーターの役割を「何か特別なことをする人ではなく、認知症の人や家族をあたたく見守る応援者として自分のできる範囲で活動する人」と説明。講話や寸劇を通して認知症に対する理解を深めました。最後に受講者全員に「認知症の人を支援します」という意志を示す目印の「オレンジリング」が手渡されました。



講座を修了した大館地区老人クラブの会員



大先輩からのアドバイスをもらって競技する児童

グラウンドゴルフで世代間交流

9月17日、稲垣体育センターでグラウンドゴルフ体験が行われ、市内小学生25人が汗を流しました。

これは、スポーツに触れ合う機会を提供し、生涯スポーツの普及と子どもの健全育成を図ること目的に市体育協会が主催。いながきグラウンドゴルフ愛好会のメンバーが講師を務め、ボールの打ち方の基本から指導しました。最初はなかなか思うようにボールが転がらず悪戦苦闘していましたが、終盤には見違えるほど打数が少なくなり、中にはホールインワンを出す児童も現れ、上達した姿を披露していました。

被災地の子どもたちに絵本を

市内の読み聞かせ活動団体の北澤由美子さん、佐藤めぐみさん、松本文子さんが東日本大震災の被害を受けた子どもたちに絵本を届けようと市内保育所、幼稚園、小学校に呼び掛け、9月14日、寄せられた絵本や児童書など436冊を発送しました。

被災地の図書館は津波で大量の蔵書を流失。市民から提供された本は岩手県遠野市を拠点に車による移動図書館活動をしているシャンティ国際ボランティア会に届けられました。北澤さんは「986冊の善意が寄せられ、残った本はつがる市読書まつりでリサイクル本として活用します」と話していました。



被災地に送る絵本を箱詰めする北澤さんら



囲炉裏の周りに干支の置物が並び

古民家にユニークな稲わら作品がずらり

稲わら文化の魅力を知ってもらおうと、稲垣「藁の会」（野崎克行会長）が「第5回今も昔も藁って展」を稲穂いこいの里物産館ギャラリーで開催し、多くの市民らが訪れました。

展示会には昔ながらのわら細工や現代生活にマッチさせようと会員が創作したインテリアや置物など計約80点を展示。かかし人形やほうき、縄ないなどの体験コーナーも人気を集めました。

訪れた市内の30代女性は「わら細工は古くて昔のものだと思っていたが、新しい使い道や可能性があると感じた」とわら文化を見直した様子で話していました。